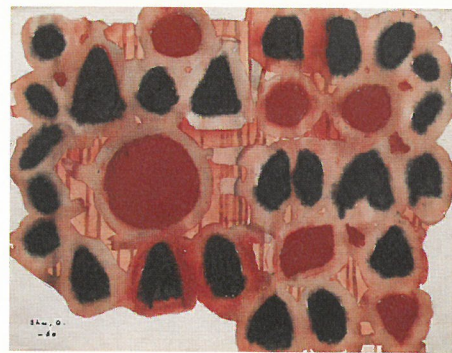


1960年代—北海道に、小川原脩に、「アンフォルメル旋風」到来

小川原脩は1958年頃、縄文遺跡をはじめとした考古学の世界へ強く関心を寄せるようになります。その熱中ぶりは、1959年には倶知安町内で発見された峠下遺跡の調査団委員に名を連ね、発掘に参加したほどです。1960年代に入り、太古の遺跡遺物から地表そのものへと展開します。しかし「自らの模倣を避ける」といった彼の創作姿勢により、考古学的なものから着想を得た展開は59年から62年までの短い期間で終わりを迎えました。直後より頻繁に登場するようになったのが馬です。荒々しくも鮮やかな橙と緑の色彩の中、力強い馬の造形が浮かび上がります。

アンフォルメル（不定形の抽象絵画）という美術の潮流に影響を受け、躍動感あふれる表現を試みた1960年代の作品群の魅力に迫ります。



街衢 1960年



フグッペ 1960年



表土 1960年



無題 1962年



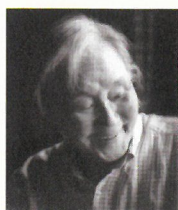
無題 1962年



無題 1967年



無題 1967年



小川原脩
1911-2002

北海道・倶知安町生まれ。東京美術学校（現・東京藝術大学）西洋画科卒業。美術学校在学中に「納屋」（1933年）が帝展に入選。美術学校卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。後に、軍の命により戦争記録画を制作。

戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会（全道展）」の創立に参加。1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出磨らと「麓彩会」を創立。1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞、この年小川原脩画集を出版（共同文化社）。

倶知安町に定住してから60数年の間、遥かなるイメージを求め続け、70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドで創作への新境地を拓いた。

●同時開催.....

小川原脩記念美術館開館20周年特別展
『小川原脩の世界』

8月10日(土)～11月10日(日)

小川原脩記念美術館開館20周年記念くっちゃん美術展
『第61回麓彩会展＋くっちゃんART 2020』

11月16日(土)～2020年2月11日(火・祝)



小川原脩記念美術館

Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 (0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>